

金城学院大学 国際情報学部 国際情報学科

佐藤 奈穂 講師

学生時代の旅がきっかけで東南アジアに深く興味を持ち、現地に住みながら「本当の豊かさ」について考えてこられた佐藤先生。現在も日本とアジアのシングルマザーの比較研究を行いながら、この春より大学で国際情報学部の講師として教鞭を執られています。また3年生のゼミではカンボジアでのプロジェクトを実施予定、「世界を見て“想像力”と“創造力”を養ってほしい」と指導していらっしゃいます。



世界を知り、「想像力」と「創造力」を身につけ
自分で自分の道を歩める人に

佐藤奈穂講師／龍谷大学法学部卒業後、カンボジアのNGOで日本語教師として働く。その後、龍谷大学大学院経済学研究科修士課程に進学。2004年にカンボジアへ研究留学。帰国後、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研科博士課程に進学。京都大学東南アジア研究所、研究員を経て今年度より現職。

学生時代の旅を通して カンボジアの研究へ

学生のころからアジア地域に興味があり、大学2年の夏休みに友人と片道の航空券だけを持ってインドへ行きました。現地では街を歩けば1分に一度物乞いに腕をつかまれるなど学生にとっては衝撃の連続の旅でした。まさに「世界は広い」と実感しました。そして次の春休みにはタイ、カンボジア、ベトナムを回ったのです。

当時のカンボジアはまだジャングルでゲリラ戦が続き、情勢は不安定でした。しかし人々の表情は非常に穏やかで、彼らの暮らしは活気に満ち溢れていました。「ここに一度住んでみたい」。そう思った私は4年生になると友人たちが就職活動に励むのを横目に通信教育で日本語教師の勉強をはじめました。当時は国際ボランティアやNGOに関する情報は非常に限られており、インターンの募集などありませんでした。4年生の夏休みに再びカンボジアに渡り、現地で「日本語教師として働きたい」とNGOを訪ねて歩きました。その後、日本語教師の資格を取得。そのときに出会った現地のNGOで孤児や貧困家庭の子どもたちに日本語を教えることになりました。

カンボジアで暮らすうちに経済発展が本当に彼らに豊かさをもたらすのか、この国がめざすべき道とはどこなのかと疑問を持つようになっていきました。「もっとこの国のことを知りたい」と、日本に帰国して今の研究に携わるようになったのです。

本当の豊かさを知るために

研究は主に日本と東南アジアにおけるシングルマザーの比較研究を行っています。カンボジアでは内戦の影響で全世帯の1/4が女性世帯主世帯、つまり母子家庭になりました。日本では母子家庭の貧困が深刻な社会問題になっています。しかし、カンボジアでは母子家庭とほかの一般家庭の貧困割合を比較するとほぼ同程度、むしろ母子家庭の方が低いくらいな

のです。なぜ彼女たちは貧困に陥らないのか。その農村社会の仕組みについて研究しています。

カンボジアでは女性が経済的に活躍できる場があり、また親族ネットワークが強く助け合いながら家計を支えています。子育ての責任が親に限定されず、子どももたくさんの人から愛情を受けて育つので母子家庭であっても寂しさや悲壮感を感じられません。「貧しい」と言われるカンボジアの農村社会の暮らしから、私たちは多くの示唆を得ることができます。私の研究は「本当の豊かさ」を追求する作業でもあるのです。

異なる社会では、日本で「価値がある」とされていることが無価値であったり、「不幸だ」とされていることが不幸ではなかったり、それまでの自分にとっての「当たり前」や幸福感が大きく変わることもあります。「豊かさ」を追求することは、自分自身の生き方をより豊かにする作業でもあるのです。

地に足をつけて歩く力を養い 自分の人生を拓いてほしい

学生たちには二つの「ソウゾウリョク」を身に付けて欲しいと思っています。一つは「想像力」です。文化や環境、宗教などが異なる社会や人々を理解するにはまず「想像力」が重要です。それは自分ではない誰かに対する理解力とも言えます。グローバルな世界の中での相互理解の基礎になると同時に自分自身の価値観や生き方をも変



日本語教師時代の写真

える力にもつながるはずです。現代社会に大量に溢れる情報を鵜呑みにせず、自分自身で考え判断しながら「想像力」を身に付けて行って欲しいです。

そしてもう一つは「創造力」。ただ受け身でいるだけでなく、社会や世界に対して能動的にアクションを起こし、その楽しさを知って欲しい。考える「想像力」と行動する「創造力」があれば、若い学生たちはこれから何だってできるはずです。

国際情報学部では1年次に全員参加の海外研修「KIT」が行なわれます。海外での経験は異文化を知る、ということだけでなく自分自身を変える大きなチャンスになるはず。また3年生の佐藤ゼミでは、貧困や国際協力についての基礎を身に付けると同時にカンボジアでの国際協力プロジェクトの立ちあげをはじめています。「カワイイ」をキーワードに女子大生ならではのプロジェクトを目指しています。

学生のみなさんには大量の情報に流されず、周囲に惑わされることなく地に足をつけて人生を歩んでほしいと思っています。「想像力」と「創造力」をもって誰かの役に立ちながら自分も豊かに生きる。自分で自分の道を歩める人になってほしいと願っています。



佐藤先生はどんな人!?

佐藤ゼミの3年生のみなさんに先生の印象を伺いました。すると「とても話しやすい先生」という声が多く上がり、「私たちとの距離が近く感じられる」「常に肯定する姿勢でいてくださるので意見をいいやすい」「初対面からとても親しみやすく感じた」との声も聞かれました。また「学生時代の話聞いて、その行動力がすばらしいと思いました。見習いたいと思います」との意見も飛び出し、先生の姿勢や行動力を尊敬する様子が窺えました。